



星の王子さまが「下関ら友の会」の名誉会員に深坂さくら友の会ができるまでの定例作業で天狗巣病に枝の切除作業を行つた。その園業の人達を除くと、天狗巣病の名前を知つている人さえ少く、プロの後ろにぞろぞろとつづいて、天狗巣病の枝を見て回つた。

A man in a straw hat and blue shirt is cutting grass with a scythe in a dense forest. A cartoon character with yellow hair and a yellow shirt is standing in the foreground, holding a sword. The background shows other people working in the forest.



同期生  
三輪憲三

悪い男、伊東治機との出会いは、平成20年11月でした。市報に「さくら友の会」のボランティア活動の募集案内が紹介されておりました。

伊東さんも私もこの活動に初めて参加しました。ここから彼との付き合いが始まりました。入会早々から部会の会議に



さくら友の会の友  
伊東治機君を偲んで



秋の日帰り親睦旅行について

場 所： 錦秋の豊後大野 探訪

日 時： 11月15日(日) 下関北運動公園 7時発

見 学： 沈堕の滝 轟橋・出會橋 滞迫峡  
原尻の滝 普光寺磨崖仏 用作公園(紅葉狩り)

昼 食： お弁当 (道の駅「きよかわ」神楽弁当)

募集人数： 先着25名(最少20名)

締 切： 10月30日(金)

旅 費： 5,000円 (参加者20名で試算)  
(バス代 62,000円 高速道路 10,300円  
ガイド 5,000円 お弁当代 780円 集合写真代 300円含む)

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～  
NPO 法人 下関深坂さくら友の会  
事務局 西川  
メール: misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp  
TEL 083-258-0143 FAX 083-258-5910

さくら新聞 一下関深坂さくら友の会 第18号 2015年8月31日発行 (2)

## 深坂の森の井戸端会議

参加者：	
西川浩子	山田澄枝
城戸富美子	山本芳枝
木本文子	枝村郁子
末森裕子	和泉昭夫
中尾和子	司会：野口周三

司会「今日は、お忙しいところをありがとうございます。特に改まることはあります。井戸端会議のつもりで、女性の方がさくら友会をどのように考へておられるか、今後どのようにしたいか、自由にお話しいただきたい。また、深坂の森に關係しようがしまいが、日本のボランティア、老老介護、経済、医療、年金、環境、軍事外交何でも結構です。」

中尾「それでは軍事外交についてひとつこと(笑)。出かけて行くのが楽しみですよね。みなと一緒に料理を作りながら、ちょっとしたコツも教えられたり、楽しいです。」

司会「いつも厨房に籠りきりで抵抗はありませんか?」

枝村「厨房の仕事と言つても、一人でするのだったら大変だけど、みんなでしているです。」(笑)



司会「もつとしたいということはないんですか。」（笑）  
山本「バターを最後に入れたら香がいいからねーとか、知らないことが沢山分かりました。」  
枝村「井戸端会議でいいんですよね。ここも長いから皆気楽に話せます。」  
西川「グループによつては、すんなり入りにくいところがあるようですが、ここ（桜友の会）はそんなことはないと。新しく入ってきた方も、すぐ、溶け込める。この間亡くなられIさんの奥様と娘さんが、来られていたけど、『Iさんが定例会に出席した日は、よくさくら友の会のこと話を話していたけど、その気持ちがよく分かつた。成る程と思つた。』と言つておられた。」  
山田「ボランティアでも、ベ

たへたするのではなく気の出ない仲間。主人と共に入っているので、生活の一部になつている。別々の場所で活動しても、後で話して情報共有することが多い。活動だけでなく二人にとつてもいい影響を受けていると思つている。」

中尾「商売しているんですが、仕事辞めたら、どうしようかと思つているという人があるので、退職したら是非入つてねと言つてます。辞めてからでは遅いですよと言つてはいる。」

末森「若い人に入つて貰いたいと思うので、先日学校にいったとき入つてもらうよう言つた。」

司会「実際に活動してみないと楽しきは分からぬ。体験が大事。一遍来ると続けて来る人も多い。ボランティアでないと、ゴミを拾うなんてことはできないですよね。」

中尾「退職したら、何かしなければならないという人は多い。」

山本「場所的なものがある、交通が不便。」

司会「電動自転車が安くなつているが、あれに乗つている人はいませんか。」

枝村「車に乗れなくなつたら、あれに乗ろうかと思つていたけど、体力が無くなつて、倒れたらおこしきらんのじやなかろうかと思う。」

司会「人に乗せてくれと言うのは嫌ですかね。」

枝村「乗せてもらひた。」

司会「足のない人たちのために何かで拾うよと言ふことはできると思うけど。さくら友の会の人は、全員が、『運転者の保険で補償される以外の賠償請求権は放棄します。』といったものを一筆、書いておいて貰う必要はありますね。」  
山田「自分の木を見に行けない人のために、ホームページに写真を載せてあげたらいとthoughtsいますが。」  
司会「それも考えたことはあります。木が、個人情報の問題があります。木の成長を見るために一本一本写真を撮つて、記録したいという思いもありますが、写真撮るのも大変ですか。なかなかいい写真が撮れません。本人が撮るのならないですが。」  
西川「それに、木が立派ならないですが、あまり元気がないと淋しい思ひをさせるかもしれないし。」  
司会「見方によつては、ど根性大根みたいに、逆境を必死に耐えて生きているというのも情が湧いて可愛いいですがね。」  
山本「みなさん、ボランティア活動だ、頑張らなきやなどと、あまり意識していないところがいいんじやないでしようかね。」  
末森「若い人に入つてもらいたいと思ひますがね。」  
木本「家族連れとか、職場の仲間とか」  
司会「末森さん、自分が働いていた時、さくら友の会に入つてもらいますか。」  
末森「若い人は仕事があるから大変です。定年退職してすぐの人とつたのですか！」（笑）

城戸「一定年になつて、何かしていいと思ひながら何もしてない人は、家でテレビ見て過ごしてしてんでしょうかね。」  
山田「図書館に行つたら、男の人が大勢新聞読んでいますよ。」  
木本「そうですか。図書館にさくら新聞置いたらしいですね。」  
司会「どうせ新聞読んでいるんなら、さくら新聞を読んでもらいたい。」（笑い）  
和泉「読んで共感した人、暇のある方、忙しい方など大いに歓迎ですがね・・・。」  
西川「昔から、『役を頼むなら忙しい人に頼みなさい。』と言いますね。さくら友の会に入つている方は忙しい方が多いんですよ。だからいいんです、かえつて。」  
木本「自分は末森さんに誘われて入つたんですが、続けられる要素の多いボランティアグループだと思います。楽しいです。」  
西川「お昼の食事がいい。樂しみにしている人も多い。」  
司会「同じ釜の飯を食うというのが大事。食事を出すことにしたのは良かつたですね。」  
中尾「ここ5年間位、会員の移動はどうですか。」  
西川「あまり移動はないけど、ボランティア募集の市報を見て来たという方もおられます。」  
山田「もつといっぱい植える所があればね。」  
司会「今日は、ありがとうございました。」